

テンブリドSC クロオオアリに対する野外試験（アメリカの事例）

1 目的

目的 テンブリドSCの樹木に生息するクロオオアリに対する効果

2 試験方法

クロアリの被害を受けている樹木にテンブリドSCを散布し、散布前と散布後の、一定時間当たりの樹木を上下する職蟻の数から防除率を計算した。同様に、別の被害木でシフルトリン製剤（10%フロアブル）とイミダクロプリド製剤（20%フロアブル）の試験を行い、結果を比較した。

▶ テンブリドSCの散布箇所：

クロアリの被害を受けている樹木：地面から1.5mの高さの樹木表面
被害を受けている樹木の周囲土壌：樹木を中心とした半径1.5mの範囲
蟻道：蟻道を中心にして30cm幅で散布（樹木から3m先まで）

▶ テンブリドSCの希釈倍率と散布量：

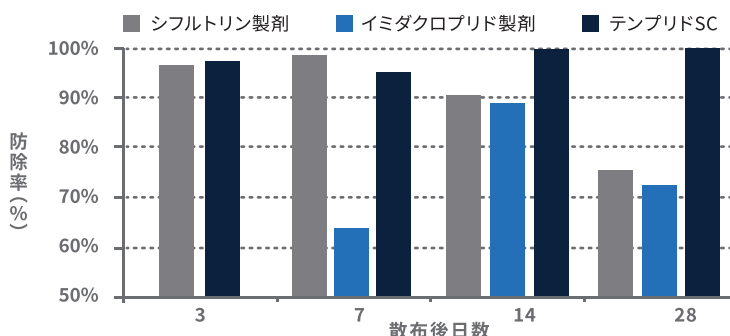
樹木と樹木周り：樹木1本あたり、200倍希釈で合計約2L
蟻道：400倍希釈で、200mL/m²

注）対照剤も同様の希釈倍率とした
シフルトリン製剤：200倍、400倍
イミダクロプリド製剤：200倍、400倍



3 結果

- シフルトリン製剤は効果が速く現れたが、14日目以降は効果が減少した。
- イミダクロプリド製剤は効果発現までに7日以上かった。
- テンブリドSCは効果が速く現れ、その効果は1カ月弱継続した。



4 考察

テンブリドSCは、クロオオアリに対して即効性と残効性の両方の効果を示した。

注）米国における試験結果。日本国内では樹木保護の目的で本剤を使用しないこと。